

CASBEE®-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	長岡京市立長岡第四小学校 校舎	階数	地上4F
建設地	京都府長岡京市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域・準防	平均居住人員	400人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,970時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2021年12月17日
敷地面積	18,583㎡	作成者	浦辺設計 富永
建築面積	2,674㎡	確認日	2021年12月24日
延床面積	6,937㎡	確認者	浦辺設計 津野田



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.6 ★★★★★☆</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆ 30% ☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆ 100%超</p> <p>標準計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ <p>46 (kg-CO₂/年・m²)</p>	<p>Q2 サービス性能: 5</p> <p>Q1 室内環境: 3.3</p> <p>Q3 室外環境(敷地内): 4.0</p> <p>LR1 エネルギー: 3.6</p> <p>LR2 資源・マテリアル: 3.5</p> <p>LR3 敷地外環境: 3.1</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q のスコア = 3.5		
Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3 	Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.3 	Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 4.0
LR のスコア = 3.4		
LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.6 	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.5 	LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
基本		その他
①情報発信基地のようなエントランス空間における学びの充実②健やかな身体づくり、体力向上を図ることができる学校③豊かな心を育む学校④安心、安全な学校 をコンセプトとし、様々な学習形態に対応する教室廻りやメディアセンターの充実、校舎と体育館の間に雨の日や災害時にも活動できる屋根付広場の設置、自然豊かな四季の森や菜園などの外構計画、防災拠点ともなる学校施設などの設計を行った。		
Q1 室内環境 中庭を設け、廊下や階段に光が差し込み、教室だけでなく、学校全体を明るくするように設計を行った。教室の照度は500lxに設定し、昼光と合わせて明るい教室環境をつかった。	Q2 サービス性能 将来の教室の転用や設備の更新などを考慮し、基準階(1~3階)については、階高は3.75m以上確保し、耐震壁をできるだけ少なくしたラーメン構造を採用することで壁長さ比率も0.2以下、積載荷重は2900N/m ² を確保した。	Q3 室外環境(敷地内) 豊かな心を育む学校のコンセプトのもと、自然豊かな外構を計画すると共に、ヒューマンスケールを意識した壁面の分節と、敷地の積極的な緑化により景観に配慮した。屋根付広場の地域利用など地域性へ配慮を行った。
LR1 エネルギー 居室に面する外部部分を断熱し、教室の窓ガラスをLow-eペアガラスとし、外皮性能の向上を図るとともに、設備機器についても高効率化を行った。	LR2 資源・マテリアル 雨水を貯留し、散水に使用する計画とした。仕上材にはエコマーク商品やグリーン購入法適合マークの商品を採用する設計とした。	LR3 敷地外環境 グラウンドは塩化カルシウムを混ぜて舗装し、周囲に防砂ネットを設置して砂塵を抑制を行う。適切な量の自転車置き場と駐車スペースを把握し、交通量の多い道路を避けて出入口を設置した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE®-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	長岡京市立長岡第四小学校 校舎	階数	地上4F
建設地	京都府長岡京市	構造	RC造
用途地域	第一種中高層住居専用地域・準防	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,970 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2021年12月17日
敷地面積	18,583 m ²	作成者	浦辺設計 富永
建築面積	2,674 m ²	確認日	2021年12月24日
延床面積	6,937 m ²	確認者	浦辺設計 津野田



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.6 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	90%
③上記+②以外の	89%
④上記+	89%

46 (kg-CO₂/年・m²)

2-3 建築環境SDGsチェックリスト評価結果

3(保健)	2.4
4(教育)	2.8
5(ジェンダー)	2.0
6(水・衛生)	2.0
7(エネルギー)	1.8
8(経済・雇用)	2.5
9(イノベーション)	1.7
11(都市)	2.4
12(生産・消費)	1.6
13(気候変動)	2.1
15(陸上資源)	2.5
17(実施手段)	2.0

2-4 中項目の評価 (パーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 3.5**

Q1 室内環境 **Q1のスコア = 3.3**

Q2 サービス性能 **Q2のスコア = 3.3**

Q3 室外環境 (敷地内) **Q3のスコア = 4.0**

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.4**

LR1 エネルギー **LR1のスコア = 3.6**

LR2 資源・マテリアル **LR2のスコア = 3.5**

LR3 敷地外環境 **LR3のスコア = 3.1**

3 設計上の配慮事項	
基本	その他
<p>①情報発信基地のようなエントランス空間における学びの充実②健やかな身体づくり、体力向上を図ることができる学校③豊かな心を育む学校④安心、安全な学校 をコンセプトとし、様々な学習形態に対応する教室廻りやメディアセンターの充実、校舎と体育館の間に雨の日や災害時にも活動できる屋根付広場の設置、自然豊かな四季の森や菜園などの外構計画、防災拠点ともなる学校施設などの設計を行った。</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>中庭を設け、廊下や階段に光が差し込み、教室だけでなく、学校全体を明るくするように設計を行った。教室の照度は500lxに設定し、昼光と合わせて明るい教室環境をつくった。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>将来の教室の転用や設備の更新などを考慮し、基準階(1~3階)については、階高は3.75m以上確保し、耐震壁をできるだけ少なくしたラーメン構造を採用することで壁長さ比率も0.2以下、積載荷重は2900N/m²を確保した。</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>居室に面する外部部分を断熱し、教室の窓ガラスをLow-eペアガラスとし、外皮性能の向上を図るとともに、設備機器についても高効率化を行った。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>雨水を貯留し、散水に使用する計画とした。仕上材にはエコマーク商品やグリーン購入法適合マークの商品を採用する設計とした。</p>
	<p>Q3 室外環境 (敷地内)</p> <p>豊かな心を育む学校のコンセプトのもと、自然豊かな外構を計画すると共に、ヒューマンスケールを意識した壁面の分断と、敷地の積極的な緑化により景観に配慮した。屋根付広場の地域利用など地域性へ配慮を行った。</p>
	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>グラウンドは塩化カルシウムを混ぜて舗装し、周囲に防砂ネットを設置して砂塵を抑制を行う。適切な量の自転車置き場と駐車スペースを把握し、交通量の多い道路を避けて出入口を設置した。</p>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される